

STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2013推進ニュース

「社会保障・税一体改革」阻止・介護保障制度の抜本改善を!!

—今年も介護の“Big Wave”をおこそう!—



11月12日(火) 介護の国会行動を行いました

全国で取り組んでいる署名の5つの項目で、国会で、**議員陳情行動**を行いました。

- 要支援者のサービスは市町村の事業に移さず、内容を充実させること
- 利用料の引き上げを実施しないこと
- 施設入所の対象から「軽度者」をはずさないこと、低所得者が安心して入所できるよう費用負担の軽減制度を強化すること
- 介護報酬の大幅引き上げをはじめ、介護従事者の処遇改善策を講じること
- 以上を実現するために、介護保険財政への国庫負担を大幅に増やすこと

長野、埼玉、千葉、東京、神奈川、石川、滋賀、大阪の8県連から、**29名**が参加。石川からは、夏の国会行動に引き続き、**特養待機者家族会の役員さん**も**2名**、参加してくれました。

まずは情勢の学習

林常駐理事から、要支援者への支援の見直し、特養の入所対象者を要介護3以上へ限定、デイサービス機能をリハビリに特化、一定の所得がある利用者の負担引き上げ、補足給付を見直して、特養からの低所得者の追い出し、自己責任の徹底などの施策が進められていることが話されました。

しかし、施策に対して各方面からあがっている疑問の声も紹介されました。東京都稲城市の福祉部長は「財政状況が厳しい市町村では高齢者の状態把握が疎かになってしまうなど、地域格差が生じることを危惧している。費用対効果という一面だけでとらえて、見直しを行うことは国民にとって有益なのだろうか」、民主党の山井議員「認知症は早期の発見・対応が重要。早期対応がなくなれば、症状が悪化し、要介護になる人が増える」、みんなの党の中島議員「要介護認定は地域でばらつきがある。そのばらつきを精査せずに市町村に事業を移すのはおかしい。本来サービスを受けられる人が受けられなくなってしまう」

2010年に福祉用具の「軽度者」外しの提案が出た時に、押し止める効果があったのは自治体の意見書でした。今後の活動として、国と自治体の両方にはたらきかけが重要になっていきます。この1~2ヶ月が大切な時期となります。大きなウェーブをつくっていきましょう!

それから、地元の国会議員を中心に議員陳情行動

地元の国会議員の他に、夏の国会行動で反応のよかった議員も訪問してきました。

◆**埼玉チーム**「自民党の豊田議員がたまたま帰って来て、話を聞いてくれた。**以前よりかは、ぞんざいではない対応だった**」



◆**東京チーム**「特養入所から要介護1・2

を外すことをやめてほしいと訴えると、民主党の長妻議員(元厚労大臣)は共感を示してくれた。みんなの党の川田龍平議員秘書は、**署名が集まったら、紹介議員の協力をしたいと約束**してくれた」



◆**神奈川県チーム**「はじめての国会行動だった。TVなどで要支援のサービスが切られるという話が流れるたびに、**利用者さんが不安になっている**という話を伝えた」



◆**長野チーム**「日本共産党の小池議員（元民医連医師）の秘書の方に話を聞いてもらい、**一緒にがんばろう**と感じがよかった」

◆**滋賀・大阪チーム**「自民党の新原議員秘書は「**プログラム法案に反対**」と表明、**お互いに質問をしながら話**ができてよかった」



◆**千葉チーム**「みんなの党の薬師寺議員は受付の時点で、**‘お会いしませんとおっしゃってます’**と門前払いされてしまった」



◆**石川と家族会チーム**「石川にある3つの家族会のうちの2つの家族会とともに訪問し、介護のたいへんさを綴った手記を手渡してきた。**家族会の訴えは真に迫っている**。実態を聞く機会が少ない秘書にも伝えていくことが大事である。自民党の永山議員秘書に自分が勤める特養の待機者が150人いることを伝えると、「**えっ！そんなにいるんですか！**」ととても驚いていた。民主党の秘書からは「**民主党はもうダメだから、自民党に言ってくれ**」と言われた」

特養待機者家族会（石川）から、お話をいただきました

★**林さん**「石川で1500人の待機者がいることが分かり、当事者が声をあげていかないと行政は動かない、**黙っていても変わらない**、と会を発足させた。10年間活動を行って、**行政が変わっていくのをしみじみと感じている**。厚労省から、多くの特養入所待機者が、入所の順番が来た時に断っているという報告が出た時に、「断った理由をきちんと調べたのか」と行政に詰め寄った。あわてて行政が調べると、なんと40%の方がすでに亡くなっていたために入所を断っていたことが分かった。それ以来、行政は特養のとりくみを進めていて、石川のベッド数は全国でもトップクラスとなった。**全国でも、家**

族会を立ち上げて行ってほしい」

★**田畑さん**「**要介護度2の認知症の両親を介護している**。深夜2時にいなくなったり、火災報知器をならしてしまったりと**目が離せない**。要支援や要介護1・2を切り捨てることは、『オレンジプラン（国が示した認知症対策。予防を推進して、重度化を防ごうというもの）』からも外れている。**認知症の人たちが放り出されてしまう**」

各地の介護ウェブの報告も♪



・11月2日に**長野**で介護の県民大集会を開催。500名を超える参加があった。長野県の認知症の人と家族の会が「自分たちは、政治への圧力団体ではない。でも、そんなことを言っている場合ではない」と参加をしてくれた。

・**埼玉**では、11月から署名宣伝活動を3回行い、やるたびに署名の数は増えていっている。毎週、介護ウェブニュースを発行してがんばっている。

・**東京**は11月13日にお年寄りの原宿‘巣鴨’で、県連介護職で初めての宣伝行動を行う。埼玉からも応援に駆けつけてくれるので心強く感じている。

田村智子議員が応援に駆けつけてくれました

毎回の国会行動で、応援に駆けつけてくれ、議員会館内の会議室の手配もしてくれている田村議員（日本共産党・前厚労委員、現文教委員）が忙しい中をぬって、応援に駆けつけてくれました。利用者さんだけでなく、介護者やこれからの世代にとっても、介護の問題は大きな課題。みんなで取り組んでいかないといけないと話されました。

また、いま話題の介護以外の大問題、‘何が秘密かも秘密です’の『秘密保護法案』についての危険な中身も秘密保護法案の策定のための真っ黒に塗られた報告書を掲げて説明していただきました。



お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」 事務局：諏佐・山平

☎ 03-5842-6451 / fax 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp